

情報化施工の導入メリット確認

山口県防府市で整備が進められている人工芝多目的グラウンド整備工事（施工＝山陽建設工業・中司興業）で、路盤工や舗装工を担当する大成ロテック中四国支社は、同工事に自動追尾式トータルステーション（TS）を用いたモーターグレーダーによる情報化施工を導入した。5日、防府市職員ら約30人



大成ロテック中四国支社 防府市で現場見学会

が参加した現場見学会を実施し、写真、情報化施工のメリットや施工精度などを確認した。

見学会では、同社中四国支社の関口峰機械室長ら担当者が、施工の概要や情報化施工導入のメリット、情報化施工のシステムを説明し、TS制御によるモーターグレーダーでの敷きならしを実演。仕上がり面をTS検測機で実測し精度を確認した。

グラウンドの舗装は高い平坦性が要求されるため、ミリ単位の高精度で施工可能な情報化施工が取り入れられた。同社では「熟練した技術者の確保が難しい中、省力化などにつながる。さらに情報化施工の活用で、設計データ作成などの業務に、女性技術者の活躍の場を広げる一つのツールとしても期待できる」とし、今後も情報化施工の導入促進、技術向上を図っていく。